

## 会則改正に当って

駒澤史学会々長 葉 貫 磨 哉

「駒澤史学」の創刊号が発刊せられましたのは、昭和二十七年十二月であり、これより回を重ねた「駒澤史学」の刊行は、三十数回を数えました。勿論この間に止む無く印刷発行を休む年もあり、雑誌の継続刊行には並々ならぬ苦勞が伴いました。また雑誌の発刊と共に教職員・卒業生・在学生が一体となって、毎秋講演会・研究発表会などの内輪な慎しい学会を催し、会則を定めて卒業生及び同学の士の参加を呼び掛けました。年々会員の参加は盛況を極め、会員の発表は、多くの資料を参加者に提供してくれるまでに成長しましたが、昭和四十年代の各大学には思わぬ嵐が吹き始め、学会を継続発展させることが不可能となり、年一回の大会は開催されること無く、今日に至りました。しかし校内を揺さ振った大風一過の後には、雑誌発刊の資金に悩む事なく、大学当局の全面的援助に頼り、機関紙の刊行だけは続ける事が出来ました。

しかしこの事によって、雑誌「駒澤史学」は、駒澤大学史学会の機関誌では無く、歴史学科教室の紀要に変貌し、学会活動は停止しました。これら大風の過ぎた後に、大学院を中心とする有志によって、大学院史学会が発足し、学会活動は、院生中心の学会によって継承されました。

今度、卒業生の間より駒澤史学会の復興再開を望む声が起り、機関誌の発刊も発足当時の春秋二回の刊行を企図することになりました。歴史学科教室は慎重に検討した結果、これらの要望を諒として、会則を改定

し従来の慣行を傷付ける事なく、卒業生及び各位の要望に添えるものと確信し、教職員・卒業生・院生・学部学生及び同学の士の協力を請い、年一回の大会を開催する方向を目指して、鋭意努力する事に決定致しました。何卒昔年の学会にも勝る御支援と御協力を賜りたく、偏に冀って、再生「駒澤史学」刊行の御挨拶と致す次第で御座居ます。

昭和五十九年三月吉日